

彼を知り己を知る「おもてなし講座」

仙台陣屋版 かわら版

国立博物館開設にむけた「おもてなし」講座を実施しています。前半3回では外部から講師を招き、その団体が活動する背景や具体的な内容についてご紹介いただきました。そのなかで、特に含蓄があると思われた部分を抜き出しました。

(第1回 北海道開拓の村ボランティアの会 より)

- ・「多くの人々、特にお子さん方とも触れ合う機会が増えたことで、若返ったと感じています」
- ・「最初から突っ走らず、ご自身にあった参加の仕方をごえられるといいでしょう」

(第2回 札幌大学ウレシパクラブ より)

- ・「(台湾原住民であるブヌン族では) 子ども達が小さい時から自分の文化を学べる場所があって、とても羨ましく思いました」

(第3回 洞爺湖有珠火山マイスターネットワークより)

- ・「(洞爺湖有珠火山マイスターは) 43人います。寄らばですよね。(それぞれの分野の) 凄い専門家があります。プロのカメラマンとかね。凄いですけど、43人の大所帯は色々あります(中略) 居住エリアが4市町村に跨っており、さらに個性の強い人の集まりなので、なかなかまとまらないです」

なお、講座は現在後期に移り、アイヌ民族博物館の元館長でいらした中村齋氏に、お話を伺っています。改めて白老の風土に目を向け、地域の魅力について理解を深めていくとともに、中村氏が博物館職員として培われた長年の経験から、今後の白老における「おもてなし」のあり方についてもご提案をいただいています。

ご興味のある方は、是非お問い合わせでご参加ください。

◆第5回 2月25日(土)
13時30分~15時30分
白老コミセン202号室

◆第6回 3月11日(土)
13時30分~15時30分
いきいき4♥6 交流センター



＜右上：「開拓の村ボランティアの会」の組織について。右下：ウレシパクラブの発行物を閲覧。左：火山の周辺で暮らす人々が協力し合う仕組みについて＞



第132号

(平成29年3月号)

発行：仙台藩白老元陣屋資料館

〒059-0912 白老町陣屋町 681-4

TEL&FAX 0144-85-2666

春を先取りする展示会、「雛人形展」が開幕です

平成28年度「麗しの雛人形展」が開幕しました。今年はずいぶん大正初期の雛壇が仲間入りしています。注目は現在のお雛さまと比べ、内裏雛の左右が逆である点。どこか懐かしさも感じさせる雛人形たちを、是非ご覧になってください。昭和初期の御殿飾りやユニークな手作り雛たちも、例年通り登場しています。

会期は3月5日(日)まで。当日は「お雛さま会」も催します。甘酒やお抹茶を味わいながら過ごせる、楽しいひと時をご用意しています。



【お雛さま会のお知らせ】

日程 平成29年3月5日(日) 時間 13時から15時まで
場所 仙台藩白老元陣屋資料館 予約 要りません
催物 物語の読み聞かせ／折り紙で作るお雛さま／雛祭りクイズ大会
お抹茶や甘酒の振る舞い／お雛さまを飾ってみよう

が深いお隣同志、情報交換や交流の機会を増やせると思います。

古文書講座で陣屋を紹介

歴史的に繋がりが深いお隣同志、情報交換や交流の機会を増やせると思います。

登別市教育委員会が主催する古文書講座で陣屋跡の歴史や白老町の文化財について紹介しました。30名程が参加され、興味深そうに耳を傾けて下さいました。



<仙台藩士の足跡を解説>

白老の歴史をお勉強

萩野小学校の4年生20名が、郷土の歴史を学習するために陣屋資料館を訪れました。初めて詳しく知る江戸時代の白老のできごとに、皆さん真剣な顔つきで耳を傾けていました。男の子たちは特に武器やヨロイに関心が高いらしく、展示品を眼前に終始興奮気味。一方の女の子たちは、ちょうど開催中の「雛人形展」が気になる様子でした。陣太鼓やクマのはく製も、興味を惹く展示物だったようです。

案内後は、日本刀は買えるのか、古銭の価値はどれくらいなのか、といった質問が寄せられたほか、兜の重さを実際に確かめてみるなど、時間いっぱい楽しんでもらえたようです。



△楽しくお勉強できましたか▽

「仙台陣屋かわら版132号(平29年3月号)」

発行日:平成29年2月21日(火)

発行所:仙台藩白老元陣屋資料館 担当者:平野・工藤

<http://www.town.shiraoida.jp/bunka/inval/>

Mail: jinya@town.shiraoida.jp TEL:099-2000000